

2018年5月
1140号

百葉 Manyok

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5

(一冊の会研究室)

政治分野における男女共同参画推進法成立！！ “真の平等”の実現に向けて

新緑がうるわしい5月20日。先ずは相馬雪香先生と大槻会長に母の日のプレゼントのカーネーションをメンバーから贈呈、同時に尾崎先生と石田理事長へ一足早い父の日のプレゼント贈呈というサプライズで櫻華塾が始まりました。「皆で意見を言い合しましょう！」との大槻会長の提案で、皆の顔が見え一人ひとりの目を見て発言出来るよう、相馬先生の笑顔のお写真を置いた机をメンバー皆で囲みました。新しいメンバー高橋さんを迎え、進化した櫻華塾の始まりです。



政治分野における男女共同参画推進法成立

今回の櫻華塾、何といっても一番のトピックは、政治分野における「男女共同参画推進法」が参議院で満場一致で成立！推進法制定の為、生涯をかけて活動された筆頭最高顧問の赤松良子先生へ、「赤松先生、政治分野における男女共同参画推進法成立おめでとうございます」と成立をメンバー一同で大いに喜び合いました。

一冊の会は大槻会長が、20年以上もクオータ制の実現の為の啓発活動をし続けてまいりました。筆頭最高顧問赤松良子先生に師事を仰ぎ、宮崎公立大学の学長であり、女性学の推進者であった故林弘子先生に世界の女性問題、女性の在り方につき言及して頂きながら世界から日本の女性の地位やクオータ制等、数々の活動を粘り強く継続してまいりました。この度衆議院・参議院で推進法が可決され成立したという大変嬉しいニュースを受け、久留米大学名誉教授、坂岡庸子先生が一冊の会の事務所に訪れて下さったと小山副会長から報告がありました。坂岡先生は故林先生のご友人であり、今回の法案可決を受け、「林先生の精神を受け継いでいきたい」と決意を固くされていたとのことです。

生前、林先生は「富士山と一緒に登ろう！」と大槻会長と坂岡先生におっしゃっていました。この度、坂岡先生はその時の事を振り返り「富士山の山頂は大変寒いですが、同時に遠くから眺める富士山の美しさは多くの人を魅了し続けております。林先生の“富士山と一緒に登ろう”とは、山頂まで登山すること自体は大変厳しいですが、その雄姿は人を感動させる。一冊の会の活動も同じです。活動を持続することは、時に大変困難ですが、周りの人と互いに寄り添うことでその心は伝わり、感動を与えることが出来るのですね」と語られていました。

1946年4月10日に行われた初の男女普通選挙当日の女性の心情・行動を、一冊の会が日本で初めて全国を歩き回り聞き取り調査を行い出版した「日本女性の^{たびだち}人権の原点」と評価されている『1946.4.10. 初の婦人参政権行使と日本女性自立への出発』、通称“ブルーの本”。ブルーの本には林弘子先生の他に山下康子先生からも発刊の辞を頂いています。その19ページ目には世界の各国と比べると女性の議員数が少ない日本にはクオータ制の導入が必要であり、女性の候補者を援助するNPO/NGOの台頭につき触れられています。NPO法人として、日本女性史の始まりの日を手弁当で調査した先輩方の精神を引き継ぎ、男女平等のみならず、世界の皆が国、人種、文化等の壁を乗り越え、真の意味での“平等”の実現に向けて今後も活動をして参りましょう！

マララ・ユスフザイさん、銃撃後ふるさとパキスタンに一時帰国

ノーベル平和賞受賞者である20歳のマララ・ユスフザイさんが、2018年3月29日に軍に護衛されヘリコプターで以前住んでいた家に両親と共に足を運び友人と再会することが出来たとのこと。マララさんは実家のあるスワート地区を去った自分が今、目を開いて戻ってきた、夢が叶ったと泣いて語りました。マララさんは女性教育支援をしており、マララ基金の資金で3月半ばに同地区で女子学校が開校しました。

一冊の会では教育支援の一環として海外への文房具の贈呈を継続しており、2002年にはJR総連の日本代表メンバーと共にパキスタン・アフガニスタンを訪問しています。現地では難民キャンプ病院にて子どもと触れ合い、日本から背負ってきた鉛筆や消しゴムといった文房具を贈呈しました。当時のパキスタン・アフガニスタンは治安が悪く、護衛として兵隊に守られ、またブルカ(女性が家族以外の異性に姿を見せることが無い様にすっぽりとかぶり全身を覆う民族衣装)を現地で調達して身を守ったとのこと。当時の悲惨なまた緊張感の走る状況で、女には教育は不必要としているパキスタン国で地下活動で学んでいる女性達に何年間も届け続けた一冊の会の底力！後輩の私達はその実行力と精神力をしっかりと継承していこうではありませんか。教育・文具支援をした大槻会長、小山副会長の行動力こそが、53年間継続している一冊の会の根幹なのです。(パキスタン・アフガニスタン訪問の詳細は冊子万葉創刊号P-40～52にて)

石田理事長は『毎日夫人』2007年11月号の特集“ピープル”に取り上げられた大槻会長の記事に触れました。一冊の会発足に至った大槻会長の思い、それは「自分に出来る社会貢献は何か」ということです。大槻会長は仲間を集い、図書支援を国内だけでなく海外の残留日本人に届け、鉛筆などの文房具を発展途上国へ送ります。周囲には多くの人が集い、力を寄せ合い行動の輪は今も広がっている、と高い評価を受けております。更に石田理事長は、「今日話のあったマララさんは、ノーベル賞をとったから偉いのではない。ノーベル平和賞は結果であり、人を思い、世界を思い、活動を続けて来たからという、その生き様が凄いのであり、私たちは学ぶべきなのです。一冊の会は『1946.4.10. 初の婦人参政権行使と日本女性自立への^{たびだち}出発』で第16回市川房枝基金を受賞しました。一冊の会が日本の女性史、当時の女性の万葉集を創ったと評価されるのは、市川房枝基金という大きな名誉ある賞を受賞したからでなく、この本を出版する為に、全国を行脚し、傍所固めを徹底して、何度も調査対象者の元を訪れ多くの女性の話に耳を傾けたからです。また、女性はもとより国民が人権を持ち其々の特性で活躍出来る社会の実現を目指し持続の活動を続けて来たからです。」という力強いお言葉に、メンバー一同身を引き締めました。

政治分野における男女共同参画推進法がようやく成立しました。しかし成立したこと、そのことは結果であり、結果に至るまで赤松良子先生、林弘子先生、山下泰子先生を筆頭に推進法成立の為、生涯を支えた方々の生き様から私たちは学んでいかなければいけません。そして何よりも成立した推進法が今後しっかり機能して、真の男女平等の社会が一日も早く実現するように、今後も活動を続けて参りましょう！



文責：城杉研究員・赤田研究員 編集：赤田研究員 記録：平間研究員

※掲載記事、写真等の無断転載及び複写を禁止します。Copyright(C)2018 Issatsu no Kai. All Rights Reserved.